

# 複合語の短縮パターンの類別と推測

山田修平 23B01444  
東京工業大学理学院

## 1. はじめに

日本語においてカタカナ語の省略の方法に法則があるだろうと考え、特に英単語 2 つを並べたカタカナ語について、その省略の方法の分類をすることに決めた。

Research Question として「省略方法には一定のパターンがある」掲げる。

## 2. 方法

社会に広く普及している短縮形が存在するカタカナ語については、その省略の傾向を調べた。また「デファクトスタンダード」や「グローバルスタンダード」など、広く社会に普及している短縮形が存在しない複合語について、その短縮形を考えてもらった。を Google Form を用いて調査した。

## 3. 結果

ポスター右下に掲載している文献より、外来語の複合語の短縮パターンについて分類がされているので、これを参考にしより粒度の高い分類を試みる。

表1: 混成語・複合後の短縮パターンの分類

短縮パターン	例
[a2()+b2()]	パソコン, ケーセン, リモコン, シャーペン
[a3()+b1()]	エンタメ*, ソシャゲ*
[a4()+b0()]	コンビニ, プレハブ*, デパート
[()a2+b2()]	チューハイ, パンピョー
[a2()+b1()]	タイパ, フリマ,

\* が付いている単語は、1単語からの変化である

a は前項, b は後項, an() は a の前 n 文字抜き取り

他にも [a0()+()b4] のレイヤー などがあるが、今回はスペースの都合上主要なものに省略する。アンケートの質問と回答をいくつか掲載する。

表2: 短縮前の単語と短縮後 (N=98)

元の単語	多かった回答
サイバーセキュリティ	不可(42), サイセキユ(40)
オリエンテーション	オリエン(44), オリテー/オリテ(43)
デファクトスタンダード	デファスタ(66), 不可(17)
ソーシャルディスタンス	不可(53)
グループディスカッション	グルディス(62)
グローバルコミュニケーション	グロコミ(ユ)(65), 不可(25)

## 4. 考察

今回の調査では、まず既存の短縮語のパターンを調べて、その短縮パターンの類別をした。2つの語から連成される語の短縮パターンは、それぞれの単語の語頭から抜き出して連ねたものが多く、これが基本的な短縮パターンと考えられる。このうち、前項から取り出す文字数によってパターンがあるが、どれにも共通しているのが、省略後の単語が 3~5 文字に抑えられている(特に 4 文字が多い)ということである。この傾向は、省略するうえでのある種の規格化であると考えられる。

そして、結果より 4 文字になる短縮パターンのうち語感が良いものが選択されやすいと推測する。(語感の良さについては議論が必要である。)

各語から 2 文字ずつ選択された短縮パターンにおいて、撥音や促音の並びや発音のし易さによって回避される短縮パターンが存在すると考えられる。例として、「ソーシャルゲーム」は各語から 2 個ずつ選択すると「ソーゲー」で、前項から 3 個選択すると「ソーシャゲ」となる。ここから撥音が回避され「ソシャゲ」に収束したと推測できる。また、今回は広く社会に普及している短縮形が存在しない複合語を対象に調査したが、広く社会に普及しない理由は語感の良い短縮形が存在しないからであり、その結果回答に「省略不可」という回答が増えたのではないかと推測できる。

## 5. おわりに

この研究では、複合語の短縮パターンに焦点を当て、その法則性について探求した。方法として、社会に普及している短縮形が存在する複合語の短縮パターンの調査と、社会に短縮パターンが普及していない複合語について Google Form を用いたアンケートにより調査した。結論として、2単語から語頭の 2 文字を取って繋げたものが一番選択されやすく、より語感の良い短縮パターンに収束すると推測できる。

文献:

林 慧君. (2004). 外来語の複合語における略語の語構成. 語文研究, 97, 1-16.

<https://doi.org/10.15017/8931>